

海外の話題

風水について

農林中央金庫 シンガポール支店長 栗 原 晃

シンガポールの街には風変わりな形をしたビルが多い。東京からのゲストを案内しているときなど、「あのビルは何?」、「このビルの形の意味は?」と尋ねられて答えられない事がしばしばある。オフィスから見渡してみても、尖がったビルやら円盤を載せたようなビルなど、一風変わった格好のビルが目につく。街を歩いていても、意味不明な空間やオブジェが各所にあり、“限られた資源の中で経済発展を目指す” 合理的な国の性格と相容れない気がしていた。しばらくしてから、“どうも風水らしい” と知り、一念発起? して風水について調べてみた。



オーチャード通を代表する風水ビル「ニーアンシティ」

といっても、「風水」は中国唐代に始まるとされる理論でその裾野は広く、とても俄か勉強で理解できるようなものではないので、分をわきまえ市内の観光ツアーに参加した。風水は基本として地形を占うものだが、ガイド氏の説明によるとシンガポールの島の形状を占うと五つの龍が住んでいて「気」が充満している、とても縁起のいい場所だそうだ。それぞれの建物はその「気」を如何に取り込むかに腐心して設計されているらしい。その結果として、入り口のドアを道路に対して斜めに付けてみたり、わざとタクシースタンドを遠回りさせる位置に作ったり、ビルそのものも龍を模

したデザインにしたりして、それが奇妙な建物の所以らしい。島内で最も縁起のいいとされる場所には5棟のビルを使って大きな手をかたどったものまである。

ただの縁起担ぎならあえて言うほどのことも無いのだが、一部にはいかにも先鋭な、あたかも剃刀の刃のような建物があり、その刃先にある空き地が永年放置されているところを見ると、当地の人々には相応の影響力を持っているようだ。また、まことしやかに伝えられるところでは、かつて景気が悪くなった時に政府要人が高名な風水師に相談して紙幣や硬貨に「八卦」の印を刻印したという話もあり、その印は今でも見ることができる。

ことほどさように官民あわせて風水パワーで発展を続け、東南アジアの頂点に登りつめたシンガポールだが、ここに来て物価上昇やら格差の拡大など問題も見え隠れし始めた。従来周辺諸国との良好な関係維持に努めてきたが、域内で突出したためなにかと摩擦も発生している。また、当初無縁と思われたサブプライムローンに端を発する世界経済の変動にアジア全体が巻き込まれそうにも見える。政策的には、開発に一定の制限を加えるため税を引き上げたり、貧困層に対する補助を打ち出したりといくつか手を打ち始めたが、見えないところで政府が風水師にも相談しているのか興味が尽きない。

翻って日本についてだが、日本列島が龍の形をしているのは疑いの無い所である。風水ガイド氏の話によれば今年は北東の方角が「吉」らしい。海外から見ていると株式市場も政局も五里霧中に見えるが、実は飛躍の年だった！なんてことになれば、めでたいことこの上ないのだが…。

ちなみに、かく言う私のオフィスが入居するビルも、外から見ると八角形の奇妙な形をしており、隣接するビルは鋭利な形をしている。ビジネス街などでは他社との競争に打ち勝つため攻撃的な建物を作るとも言われていて、一説にはわがビルも剃刀の刃の攻撃を八卦により防御しているとの事だが、真偽のほどは定かでない。



剃刀のように鋭利な「ゲートウェイビル」